

【第4回松戸市都市公園整備活用推進委員会】議事録

日 時：平成31年2月20日（水） 午後2時～4時

場 所：松戸市役所新館5階市民サロン

出席委員：10名（別紙名簿のとおり）

欠席委員：1名

事務局：街づくり部審議監、公園緑地課長、公園緑地課課長補佐、

21世紀の森と広場管理事務所長、所長補佐、街づくり課課長補佐 他4名

傍聴者：0名

議 事：（司会：21世紀の森と広場管理事務所所長補佐）

1. パークマネジメントプランの策定について
2. 中間答申について
3. 遊び空間の検討状況について
4. カフェテラスなどの便益施設の事業者募集について
5. 委員会のスケジュール予定

配布資料：議事次第、出席状況、第4回委員会資料

第4回議事録署名人：富永委員、古賀委員

議事内容

1. パークマネジメントプランの策定について

- ・平成30年10月22日開催の前回委員会から本日までの間にパークマネジメント戦略検討部会が開催されているので、部会長より部会の議事について報告していただくが、その前に事務局より本日の進行を説明してほしい。

【事務局】

- ・お手元の資料1ページ、部会長から部会の議事について報告していただく。その後事務局より資料について説明し、皆様にパークマネジメントプランの策定についてご審議いただきたい。
- ・パークマネジメント戦略検討部会を平成31年2月1日に開催した。前回の委員会で当部会から提案したパークマネジメントプランの策定について、審議するための方向性を議論し、21世紀の森と広場の魅力向上のため、パークマネジメントシステムの構築を目指すこととした。その具体的戦略としてパークマネジメントプランを策定し、プランを動かすためのシステムを考えていきたい。検討を進めるにあたり委員会と各部会の役割を明確にしたうえで、2020年6月の最終答申に向けて審議していく。そのために

委員会、各部会がやるべき事を整理し、相互に連携できれば、と審議した。部会での審議にあたり、事務局において、管理者目線での公園の課題について職員から意見聴取し、21世紀の森と広場の課題を整理した。この他にも、利用者からのアンケートも踏まえて課題を整理していく、という説明が事務局からあった。アンケートは大切なデータとなるため、事務局から来年度4月以降に利用者向けのアンケートを実施することの提案があり、アンケートの内容についても検討した。

部会からの報告としては、来年度に利用者アンケートを実施したいということと、アンケート等をベースとしながらパークマネジメントプランを構築していきたい、ということ。また、21世紀の森と広場の魅力向上のために、公園全体の管理運営方法の転換も視野に入れたパークマネジメントシステムの構築を目指し、システムの戦略としてのプラン策定としていくことを提案したい。

- ・内容としては、課題整理のため利用者アンケートを行うことと、パークマネジメントシステム構築のためパークマネジメントプランを策定することについて討議したい、ということによいか。
- ・そのとおり
- ・事務局より資料の説明をしていただきたい。

【事務局】

- ・資料2ページ、21世紀の森と広場の課題について、大きく3つに分類、整理した。3ページ、今後の課題把握に向けて事務局にて実施する内容と、パークマネジメントプラン策定に向けた委員会のスケジュールを記載した。4ページ、課題をふまえて管理運営の基本的方向性を整理した。3つの柱を示しており、相互に関連した施策の展開を検討していきたい。5ページ、2020年6月の最終答申に向けて、パークマネジメントシステム構築、パークマネジメントプラン策定という視点で、委員会及び各部会でご審議いただきたい事項と、委員会、各部会間の連携を示した。部会間で重なる部分もあるため、適宜連携した検討ができればと考えている。
- ・利用者アンケートの対象は。来園者か市民かを確認したい。

【事務局】

- ・来園者を対象にしたいと考えているが、その他の手法についても検討していく。
- ・来園者だけではなく、来ていない人にもアピールするような、こういったことが求めら

れているか、というアンケートが良いのでは。

- ・事務局の説明に補足したい。まずは来園者の満足度、どこから来ているかなどマーケット的な分析も必要である。次にそれを踏まえて、来ていない人に聞く必要もあり、対象を広げていければと考えている。部会の中では、Webアンケートなども手法としてある、という意見も出た。
- ・2ページで管理運営の課題を整理し、それが4ページ基本的方向性につながっていくということによいか。
- ・部会での審議を基に、そのように整理した。
- ・4ページ以降についてもご意見をいただきたい。資料について、部会長から事務局の説明に補足していただきたい。
- ・今までの管理運営は公園の魅力を高めるだけでよかった。それに対し、新しいマネジメントは、公園だけではなく地域に広げていく、公園から発信する目線が同じぐらい大事になっている。マネジメントするために、時間軸、動かす人、費用の試算が必要になる。パークマネジメントを動かすためのシステムになっていなければならない。公園、地域の魅力を高め、持続可能で継続的に良くなっていくシステムを構築したいと考えている。
- ・実際の管理運営はどういう体制でやっていくのかという議論がないままということが多かった。全て市の職員だけでやるのは難しい。指定管理者か、Park-PFIか、協議会のようなものを設けるか、色々なやり方がある。今までのやり方では難しいので、新たなシステムが必要である。経営という視点、マネーロードを作るという点で、民間の視点が必要である。公園づくりで切り離せないことだと思う。
- ・今後のマネジメントの中に新しい言葉が入ってきているので、質問や疑問もいただければと思う。管理のアウトソーシングを検討する必要もあるのではないかという意見が出ている。
- ・地域の魅力を高めるということについて、実際に農業等のイベントはあるものの、行われ方や取り組み方について、市内部の各部署がもっと踏み込めるように、連携ができる仕組みも作ってほしい。
- ・庁内連携ということで、企画調整、政策調整の部署があるが、もっと具体的にということか。

- ・具体的に実例を挙げて、具体的な調整の仕組みまで提案を入れて、実効性のあるものにしてほしい。
- ・農業のイベントという例が出たが、農業という視点での意見は。
- ・農家組合にかかわっているが、形を越えて協力することが難しい。21世紀森と広場では大農業祭りなどがあり、連携するといい事がたくさんあると思うが、なかなかあと1歩が踏み出せない。日頃から農政課などが関わっているとよいと思う。市の農業と公園との関わりが薄いと感じる。せっかく良い施設があるので、農業、アート、子育てなど具体的なことで一つ一つやっていければよいと考える。具体的にやらないと議論だけで終わってしまう。
- ・子育てという話が出てきたが、他の業務で少子高齢化に関する調査を行っている。公園で子育て支援をどの様にできるのか、高齢者に対して何ができるのかを考えている。子育て支援としては、子育てサロンで公園の管理事務所の一角を使っている例があるが、子育て支援の部署が行っている。全部公園が主体でなくてもよい。庁内連携で場所を提供する。公園でいろいろなことができるということを見せていくのが良い。市民に対してだけでなく、庁内にアピールすると良い。うまくいっているところは風通しの良い小さな自治体が多い。健康遊具を全公園に設置するなどしている自治体もあり、そこでは高齢者関係の部署が中身を決めている。
- ・指定管理者の立場で言えば、行政は縦割りなので中で繋がるのはなかなか難しいので、指定管理者側から色々な部署に声を掛けるようにしている。子育て、スポーツなど公園から出かけて行って繋げていく、横串を刺すことを外部からやっている。庁内に企画戦略的な部署があり、そこと公園の管理者が繋がると良い。管理者側から呼びかけて地域をつなげないと、なかなか多様な魅力を高められない。
- ・外からの視点、市民の視点が入るとよい。市役所の中にも良いところがたくさんあるので、外から評価する仕組みが必要だと思う。行政の中からではアピールしにくいこともあるようだ。
- ・多様な主体が参画できる仕組みの展開というものが、まだ呑み込めていない。何か管理運営の主体とその発展について事例があれば教えてほしい。
- ・今のシステムがどうなっていてどう変えられるか、まず現行システムを整理する必要がある。職員目線の課題整理をしているが、その中にも重要ポイントあったと思う。

- ・現在、造園会社や環境教育、保全を行っているNPOなどの5団体とJVを組んで指定管理を行っている。多様な主体で行っていると多様な地域の主体にも声を掛けていくこともできる。固い協議会だけでなく懇談会のようなやり方もある。色々な方々を巻き込んでいく仕組みや、専門家などのコーディネートをやる人材も必要である。民間がやれば多様な主体が参画するかというと、そうとは限らない。
- ・地域性を取り入れた取り組みから始めていくなど、この公園でやりやすいものがあると思う。今のイベントは市の職員が全て主催しているが、国営公園ではコンサートなどの持ち込みイベントを受ける形がある。場所貸しであり主催ではない。その代わりに、公園が何を手伝えるのかという交渉になっていく。それが最終形だとするとステップがあり、ここを使っていいんだ、という実績を作りながら少しずつ広げていく。企業協賛についても、新宿中央公園では企業のネーミングライツで清掃をお願いしている。出来ることと出来ないことがあると思うが、メニューとして持っていることが大事である。
- ・最先端の事例を頂いたが、今の事例を含めて本公園にあった形を検討していくということが良い。
- ・遊び空間検討部会の中でも管理の話は出ており、これを踏まえて中間答申での意見を出すようにした。例えば、雑草の管理について、公園外周については近隣に迷惑がかかるので雑草で良いと思うが、園内については、野良遊びや環境教育のために草っぱらという部分があっても良いように思う。公園の魅力がアップする使い方や、場を残すという意味がある。色々な視点があるとよい。
- ・芝生なのか草っぱらなのか、どのような空間イメージにするかで大きく違ってくる。公園の魅力を高めることにつながる。森の中の話も同じである。
- ・自然環境保全のモニタリング調査は良い形で行われているが、管理の方針が実務に落とし込まれていない。公園の捉え方も時代のニーズなどによって違ってくる。草の高さによって集まるバッタの種類が違ったりするので、細やかに見て生態や環境教育などと繋げていく。使い方と管理を組み合わせる必要がある。
- ・モニタリング調査をどう使うかについては、管理区分、マネジメントのためのゾーニングを視野に入れておくことが必要か。
- ・公園の中だけでなく、公園から外、地域に目を向けなければいけない。中だけでなく外からの課題を抽出することも必要である。

・従来の考え方では、外からの意見は苦情に類型化されてしまう。苦情ではなく新たなアイデアというように見方を変えると再生のもとになるのではないか。

・外とのコミュニケーションがないといけない。市民とのコミュニケーションをどのように取っていくかを考えないと、新規の来園者が来ない。民間活用にはメリットとデメリットがあり、市のポリシーを理解してくれる人を活用し、Win-Winの関係を作っていく必要がある。

・システムの中の人材育成が大事である。利用者のニーズに応じて使い方のアドバイスができるような公園ボランティアを、コンシェルジュとして育成していくことが必要である。また、今後部会長同士で意見交換する場も必要だと思う。

・ボランティアの教育が必要である。教育を施し、ある一定のレベルがないと採用しないようにしないとうまくいかない。

・一般的に、既存のボランティアによる、私物化、派閥化、高齢化という課題がある。なぜボランティアとして来たのか、という思いを引き出すコーディネートや目標の設定と、そのための技術などを設定して段階的に向上していくように管理者が整理し、段階的に教育していく。ボランティアは入ったら出にくいというイメージがあるので、ボランティアのきっかけづくりや体験などを通して、来て来なくてもよいというような気軽に参加できる取り組みを行っている。イベントを行うと新しい人材が来て、60人から500人くらい集まることもある。年間でのべ1万人が動いている公園もある。作業だけではなくイベントを行うことで、市民からの持ち込み企画に場所を貸すなどしている。ボランティアは手放しではなく、チームビルディングを含めたきちんとしたコーディネートが必要である。

・県立公園のボランティアをしているが、近々指定管理者が変わると聞いており、ボランティアの活動がどうなるか分からない状況である。管理者が変わってもボランティア活動が継承される仕組み、魅力的なボランティアづくりが続く仕組みが必要だと思う。

・資料はとてもよくまとまっていると思う。公園を最大限に利用してもらうために、いろいろな形で人が集うようになるルールづくりがされると良いと思う。

・庁内の連携ということで、イベントごとに庁内の担当部署が責任をもって行うよう内部で提案をしたいと思う。

- ・各部会との調整が残っているが、基本的方針のもとパークマネジメントシステムを構築し、そのためのプランを策定することについて、おおむねご理解していただけただけということで良いか。

【全員】

異議なし

- ・具体化させるための議論に今後移っていくようにしたい。

2. 中間答申について

【事務局】

- ・平成30年11月7日に事務局にて受領後、12月16日に委員長、副委員長より市長へ手交していただいた。

【質問等無し】

3. 遊び空間の検討状況について

【事務局】

- ・中間答申を元に検討を進めているが、21世紀の森と広場は大きな公園であることから比較的規模の大きな整備を行う必要があると考えている。このため、平成31年度には遊具を含めた遊び空間について詳細設計を行い、平成32年度の一年間もしくは複数年度に渡って整備することを計画している。

整備のイメージについては、中間答申を反映した内容になることを目指している。

- ・遊び空間検討部会の審議の中では、公園の自然イメージを尊重して自然素材や樹木のイメージのものがいいという意見が出ていた。

- ・休憩所は少し屋根が低いものが良い。色は自然的なものにすれば良いと思う。

- ・色見は人工的でない方が良い。遊び空間検討部会の中で、0～2歳向けの提案はなかったか。0～2歳向けの場合、舗装は転んでも大丈夫な素材にしたり、遊具は幼稚園の園庭にあるようなものにしたり、囲いを作るということが必要になる

- ・部会の中では小さな子供も使えるように、という話があったが年齢の区切りに関する話は出なかった。一方で、今後の大きな遊びにつながる導入部分としての位置づけにしようという話があったので、街区公園にあるような遊具を入れる話はなかった。

0～2才は遊具で遊ぶよりは一人遊びの段階なので、保護者が付いて芝生の中や雑草の中で遊ぶイメージ。この年代の子どもは落ちているものを拾ったりするのも好き。

- ・0歳からの環境教育を行っているが、地面に座ってクローバーを集めたり虫を追いかけてたりする場所が必要。野遊びの要素はこの公園にぴったりだと思う。自然のポテンシャルを生かした遊びの空間をつくるようなゾーニングをした方が良い。保護者の休憩場所が必要である。水遊び場は野外卓、縁台なども一体的にデザインするとよい。
- ・着替え場所などの案は部会でも意見が出ており、中間答申でもイメージを載せている。
- ・経年劣化の問題や維持管理、安全の問題を考えたときに、経年劣化しないようなものを組み合わせることがあっていい。橋も構造物で日陰になるので利用できるという。
- ・公園のランドスケープとして考えた時に、永続性とシンボル性が大事である。最終的には事務局の判断になると思うが、ランドスケープとして21世紀の森と広場を代表するものとしてほしい。整備のイメージの最終的な案は委員会に報告していただけるのか。

【事務局】

- ・現在複数案を検討中なので、随時ご意見を頂く場を持ちたいと考えている。

4. カフェテラスなどの便益施設の事業者募集について

【事務局】

- ・中間答申を受けて募集要項を改善し、平成31年度から3年間の事業者募集を行った。事業者募集要項は広報まつど、ホームページ、6社の刊行誌に掲載し、ポスター・チラシを各支所・松戸商工会議所に配布した。応募状況については、カフェテラスは1者、野外体験施設は2者、里の茶屋は1者から、それぞれ応募があった。選定委員会の審査を経て事業者を決定し、結果は委員会に報告する。

【質問等無し】

5. 委員会のスケジュール予定

【事務局】

- ・今年度は本日が最後となる。次回は平成31年4月か5月に開催する予定である。

以上

【第4回松戸市都市公園整備活用推進委員会】出欠状況

| NO | 氏名 | 役職等 | 選出区分 | 出欠 |
|----|--------------------|----------------------------|--------------------------|----|
| 1 | たしろ よりたか 田代 順孝 | 千葉大学 名誉教授 | 学識経験者 (都市計画) | 出席 |
| 2 | あかば かつこ 赤羽 克子 | 聖徳大学 心理・福祉学部 教授 | 学識経験者 (レクリエーション・社会福祉) | 出席 |
| 3 | みしま こうめい 三島 孔明 | 千葉大学 園芸学研究科 准教授 | 学識経験者 (環境教育学) | 出席 |
| 4 | こうだ まりこ 幸田 麻里子 | 流通経済大学 社会学部 准教授 | 学識経験者 (観光学) | 欠席 |
| 5 | あび こ かおる 安孫子 薫 | 株式会社チャックスファミリー 代表取締役 | 学識経験者 (運営) | 出席 |
| 6 | ひらまつ れいじ 平松 玲治 | 一般財団法人公園財団 上席主任研究員 | 学識経験者 (公園管理) | 出席 |
| 7 | さとう るみ 佐藤 留美 | 特定非営利活動法人NPO birth 事務局長 | 学識経験者 (市民協働・森林管理) | 出席 |
| 8 | とみなが ひさつぐ 富永 尚次 | 松戸商工会議所 理事 | 関係団体 (商工振興) | 出席 |
| 9 | こが ひろゆき 古賀 弘幸 | 公益財団法人 松戸みどりと花の基金 理事長 | 関係団体 (緑化推進) | 出席 |
| 10 | えのもと たかよし 榎本 孝芳 | 特定非営利活動法人 クリエイティブまつど工房 理事長 | 関係団体 (市民協働) | 出席 |
| 11 | ふくだ まさひこ 福田 勝彦 | 松戸市街づくり部 部長 | 本市の職員 | 出席 |